保健医療学専攻・看護学分野
看護管理・政策学領域
23S1140　M1　野島亜紀

「一石」からつながる政治の世界

川田龍平先生へ

貴重なお話をありがとうございました。

エイズは、私たちが子供の頃は大変な病気であり、偏見の対象となっていました。小学生の頃に、血友病の薬害エイズ被害にあった少年を題材にした漫画を読んだで、薬でエイズになるんだと驚いた記憶があります。

川田先生が、実名を公表して訴訟を起こしているニュースも拝見していました。偏見のある中、10 代という若さで実名を公表してメディアの前に立つ勇気に感動しました。その後、政治家となって患者の立場から政策を考えておられて、まさに国と患者を繋げる活動をしていらっしゃると知りました。

病院で働いていると、肝炎や HIV に感染している患者も多数います。HIV の治療も進んでいることもあり、現在 HIV の既往があるといって偏見を持つ医療者はいません。先生の活動が、長い年月をかけ世の中を変えてきたのだと思いました。

また、政治の世界で制度を変える大変さも知ることができました。

国で問題に取り上げたくないことがあれば、他の大きなニュースが流れるというメディアとの関係性も、先生のお話で本当なんだと知ることができました。私達は、芸能人の薬物使用や不倫問題などがあると、何か取り上げたくないことがあるのかなと勘ぐったりしますが、何を隠したいのかまではわかりません。

救急センターに勤務していたときに、「コロナワクチンを今日打ちました」という患者が意識不明の状態で運ばれてくることもありました。副反応かわからない状態で、リスクの検討を待っている状態です。その中、医療者はワクチン接種を義務づけられとまではいきませんが、打って当たり前の風潮がありました。

厚労省でコロナワクチンの検討がうやむやになっていると知って驚いています。野党一丸となって、与党と議論を交わし国の政策がよりよい方向へ向かうことを切に願っています。

学びの多いお話をありがとうございました。